

高齢者の婚姻状態と 手段的日常生活動作との 関連について

奈良県立医科大学健康政策医学講座
博士課程 吉本和樹

研究目的

- ・加齢とともに日常生活動作は必然的に低下する。
- ・夫婦が互いの運動能力低下を補い合おうとする行動が日常活動作の維持につながっているのではないだろうか。

➡ 本研究では、高齢者の婚姻状態と手段的日常生活動作(IADL)との関連について検討を加えた。

使用データ

Health and Retirement Study (HRS)のデータ

- ・HRSは、ミシガン大学が中心となって実施している調査
- ・1992年から開始され、高齢者の生活に関わる情報を2年おきに同じ調査対象を追跡している
- ・**サンプル数は約2万人**
- ・**米国において全国代表制のある大規模高齢者パネル調査である**

IADLについて

→ 生活環境に自立的に適応するための基本的な活動の能力に関する手段的ADL (instrumental ADL: IADL) をいう。

- ・食事の用意ができる
- ・食料品などの買物ができる
- ・電話をかけることができる
- ・薬の服用管理ができる
- ・支払いなどのお金の管理ができる
- ・家事ができる
- ・洗濯ができる
- ・交通機関を利用して出かける

Lawtonの
IADLスケール

分析方法

- ・単変量解析
- ・クロス集計

にて、IADLに関連があると思われる項目を検討した。



- ・ロジスティック回帰分析を行った
統計ソフトは、JMP PRO11.2を用いた。

目的変数

- ・IADL高値(5点)
 - ・IADL低値(4点以下)
- } 二値

LawtonのIADL Scaleから5項目を選択

- ・食事の準備ができる; meal preparation
 - ・食糧品の買い物ができる; grocery store
 - ・電話で予約などができる; making phone calls
 - ・薬の管理ができる; taking medication
 - ・お金の管理が出来る; managing money
- 各項目1点で
合計5点満点

説明変数

- ・婚姻状態(二値)

交絡因子

- ・性別
- ・うつ病の有無
- ・週に1度以上の軽微な運動の有無
- ・関節炎の有無
- ・ヒスパニック系かそうでないか
- ・学歴の有無
- ・年齢(連続変数として投入または、年齢で層化した)

ほかにIADLとの関連が考えられた変数については、

- ・脳卒中の既往
- ・健康だと感じているかどうか
- ・メディケアかどうか
- ・認知症の有無

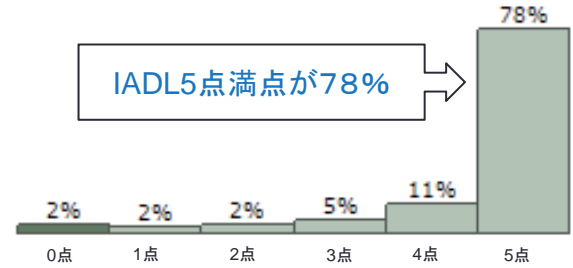
なども検討したが、値の分布に極端な偏りが見られたため、調整変数に加えなかった。

結果

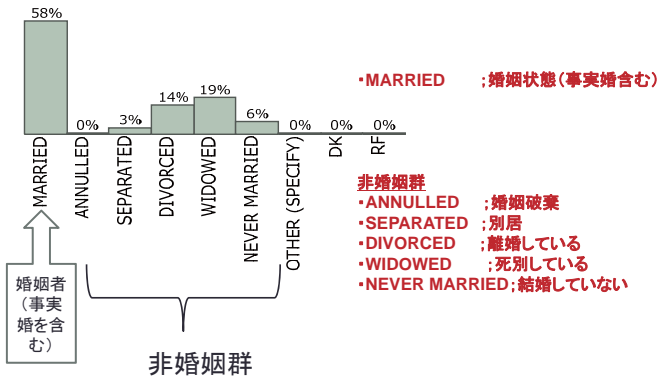
対象

- ・50歳以上の男女で19905人
- ・平均年齢67.9歳、女性が57.8%
- ・IADLの平均は4.53点
- ・IADL低値群は全体の22.3%であった。

(単変量)50歳以上のIADLの得点割合



婚姻状態の内訳



IADL × 婚姻者・非婚姻群 クロス表

度数行%	IADL4点以下		IADL5点	度数行%	IADL4点以下		IADL5点
	人数	割合			人数	割合	
非婚姻群	1341	21.11%	5012	78.89%	6353	965	48.44%
婚姻者	1557	15.40%	8553	84.60%	10110	570	41.16%
	2898		13565		16463	1535	

50歳から79歳

80-109歳

ロジステック回帰分析

調整変数; 婚姻状態、性、年齢の3つの調整変数で非婚姻状態をリファレンスで分析

・オッズ比(OR) 1.48、95%信頼区間(CI) 1.374-1.588

さらに年齢を層化

・50から79歳以下; OR 1.51 (1.389-1.639)

・80歳以上 ; OR 0.99 (0.839-1.157) 有意差なし

IADLと婚姻状態、年齢層の関係(8つの説明変数)

年齢層	説明変数	reference	オッズ比	95%CI	有意あり*
50-59歳	婚姻継続	していない	1.42	1.201-1.671	*
	学歴がある(高卒以上)	ない	1.76	1.431-2.161	*
	鬱病がある	ある	3.77	3.180-4.476	*
	関節炎がある	ある	2.11	1.786-2.504	*
	週に1度以上の運動をする	しない	3.76	3.107-4.546	*
60-69歳	婚姻継続	していない	1.27	1.077-1.493	*
	学歴(高卒以上)	ない	1.73	1.410-2.113	*
	鬱病がある	ある	2.79	2.365-3.286	*
	関節炎がある	ある	1.69	1.425-2.014	*
	週に1度以上の運動をする	しない	4.04	3.388-4.804	*

IADLと婚姻状態、年齢層の関係

年齢層	説明変数	reference	オッズ比	95%CI	有意あり*
70-79歳	婚姻継続	していない	1.0	0.855-1.16	*
	学歴がある(高卒以上)	ない	2.11	1.788-2.478	*
	鬱病がある	ある	2.58	2.182-3.05	*
	関節炎がある	ある	1.09	0.926-1.282	*
	週に1度以上の運動をする	しない	4.07	3.496-4.729	*
80-89歳	婚姻継続	していない	0.76	0.632-0.922	*
	学歴がある(高卒以上)	ない	1.74	1.412-2.132	*
	鬱病がある	ある	2.33	1.869-2.930	*
	関節炎がある	ある	0.94	0.771-1.141	*
	週に1度以上の運動をする	しない	4.92	4.12-5.883	*

IADLと婚姻状態、年齢層の関係

年齢層	説明変数	reference	オッズ比	95%CI	有意あり*
90歳以上	婚姻継続	していない	1.01	0.569-1.771	
	学歴がある(高卒以上)	ない	1.43	0.919-2.258	
	鬱病がある	ある	3.09	1.694-5.951	*
	関節炎がある	ある	1.14	0.742-1.755	
	週に1度以上の運動をする	しない	7.37	5.028-10.934	*

90歳以上では、IADLと婚姻状態で有意な結果を得ることができなかった

考察

- ・IADLは、80歳を超えると得点が4点以下となる割合が加速する。
- ・IADLの維持と週に1度以上の運動が強い関連がある。
- ・80歳前後までは、非婚姻者は婚姻継続者よりもIADLを維持できることと関連がある。
- ・80歳以上になると婚姻継続者のほうが非婚姻者よりもIADLを維持できることと関連がある。

結論

- ・婚姻の継続は高齢者のIADLの維持と関連している可能性が示唆された。
→ただし、IADLが低下したから離婚したのか、あるいは、離婚したからIADLが低下したのかについては明らかになっていない。
- ・IADLと婚姻継続との関係は、年齢と運動習慣が交絡である。
- ・今後は、IADLと婚姻との関連ではなく、婚姻と別の変数との関連を明らかにしていきたいと考える。

ご清聴ありがとうございました